

今週（5月22日から5月26日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場の無担保コールO/N物は、邦銀業態を中心としたビッドサイドの資金調達ニーズが限定的となるなか、GCLレポレートの低下を受け、オファーサイドの一部に資金運用ニーズの高まりが見られた事で、連日ギブン地合いとなり、出合いの水準は日を追う毎に低下する展開となった。

ターム物は、ショートターム物で▲0.06～▲0.03%程度の出合いが見られたほか、6月末越えの資金需要を背景に、3M程度の期間でも出合いが散見された。

日銀当座預金残高は543兆円程度から始まり、週前半は緩やかに減少する展開となったが、25日と26日に財政資金の支払いを受けて、540兆円台後半まで増加する見込みとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.25～▲0.10%程度での取引となった。足元GCは、投資家の資金調達意欲が薄く、荒れた展開となった。

SCは、カレント銘柄近辺やチーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、週を通して1Yゾーンが堅調に推移したほか、週の後半にかけは3Mゾーンのレートが低下となった。

26日に実施された3M物の入札は、按分落札利回り▲0.1643%、平均落札利回り▲0.1792%と、テールの流れる結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、落ち着いて推移する展開となった。

短国買入オペは、23日に前回と同額の1,000億円でオファーされ、按分利回較差、平均利回較差ともに+0.003%と、無難な結果となった。

●CP市場

今週のCP発行市場は、石油、その他金融、小売、鉄鋼等の複数の業態が大型発行を実施した。全体としては週間発行総額14,000億円程度、週間償還総額7,000億円程度と発行超のマーケットとなった。市場残高は週を通して概ね24兆円台半ばから後半で推移した。

発行レートは、日銀適格担保銘柄では概ね0%前後での出合いが中心であったが、ロングターム物や残高が膨らんだ銘柄については一部の投資家に慎重な姿勢が見られ、レート水準にばらつきが見られた。

CP等買入オペは、26日に事前予定通り4,000億円で実施された。結果は全取レート+0.002%、平均レート+0.014%と前回(全取レート▲0.028%、平均+0.014%)比で足切りは上昇、平均は横這いとなった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
5/22（月）	31,086.82	0.380	137.65	△ 0.034	△ 0.121	5,430,900
5/23（火）	30,957.77	0.395	138.78	△ 0.037	△ 0.128	5,429,600
5/24（水）	30,682.68	0.405	138.40	△ 0.047	△ 0.210	5,426,100
5/25（木）	30,801.13	0.425	139.42	△ 0.059	△ 0.257	5,458,100
5/26（金）	30,916.31	0.415	139.80	△ 0.063	△ 0.144	5,465,600

来週（5月29日から6月2日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
5/29 (月)					New York祝日(Memorial Day) London祝日(Spring Bank Holiday)
5/30 (火)	4月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 4月の一般職業紹介状況(有効求人倍率 厚生労働省 8:30)	2Y 29,000億円 6/1発行			3月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 5月の米CB消費者信頼感指数
5/31 (水)	4月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 4月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 4月の住宅着工統計(国土交通省 14:00) 5月の消費動向調査(内閣府 14:00)				5月のシカゴPM景況感指数 米ページブック
6/1 (木)	1-3月期の法人企業統計調査季報(財務省 8:50)	10Y 27,000億円 6/2発行	交付税借入 13,000億円 6/9借入		5月のISM製造業景況指数 4月の米建設支出 5月のユーロ圏消費者物価指数速報値
6/2 (金)	5月のマネタリーベース(日銀 8:50) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)	TB3M 63,000億円 6/5発行			5月の米雇用統計

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
5/29 (月)	500	▲ 12,200	▲ 11,700	国債補完 CP買入 社債買入	26,800 ▲ 300 ▲ 100		26,400	14,700	TB3M発行▲63,000 償還63,000
5/30 (火)	1,000	▲ 2,000	▲ 1,000				0	▲ 1,000	
5/31 (水)	1,300	8,000	9,300	CP買入		4,000	4,000	13,300	交付税借入▲13,000 償還13,000
6/1 (木)	▲ 100	▲ 28,000	▲ 28,100				0	▲ 28,100	機関貸元利回収 税揚げ前倒し 2Y発行▲29,000償還11,800
6/2 (金)	200	▲ 77,000	▲ 76,800				0	▲ 76,800	普通交付税 年金保険料揚げ 法人税・消費税揚げ 10Y発行▲27,000 交付税借入▲13,000期日13,000
週 間 合 計	2,900	▲ 111,200	▲ 108,300	—	26,400	4,000	30,400	▲ 77,900	

5/29は日銀予想、5/30以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、ギブン地合いが継続される可能性が高く、レートは低水準での推移が予想される一方で、積み期間の後半に差し掛かることで、徐々に資金調達ニーズが高まることも考えられる。債券レポ GC T/N物は、▲0.20～▲0.080%程度での推移が予想される。短国市場は、6月2日に3M物の入札実施が予定されている。また、5月30日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、月末発行が控えており、事業法人の発行動向が注目される。

主要なイベントは、国内では、30日に4月の労働力調査(完全失業率)、4月の一般職業紹介状況(有効求人倍率)、31日に4月の鉱工業生産・出荷・在庫速報、海外では、6月1日に5月のISM製造業景況指数、5月のユーロ圏消費者物価指数速報値、2日に5月の米雇用統計などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入